

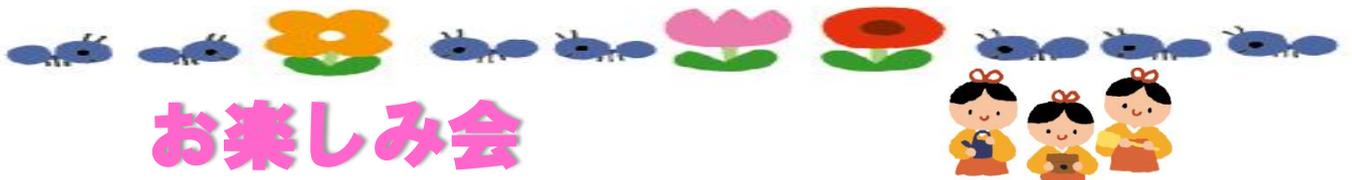


節分



節分前の一週間を節分週間と名付け、紙皿にシールを貼ったり、お絵かきをして一人一人鬼のお面を制作しました。完成した鬼を見て「おに！おに！」と子ども達は大喜び。他にも豆まきの練習や節分の歌や絵本を楽しみました。2月3日の節分当日は、自分で作ったお面をつけて1人ずつ写真撮影をした後、カラーボールを使って豆まきを行いました。鬼に変身した職員が突然現れると「おにこわい〜！」と大泣きする子もいましたが、無事に鬼を追い払うことができました。今年も子ども達が健康ですくすく成長し、たくさんの幸せが訪れますように…。

保育士 古澤 彩音



お楽しみ会



病院13階ラウンジでひなまつり会を行う予定でしたが、インフルエンザの発症があった為、乳児院内で体調の良い子と初節句の子どもたちが参加し、お楽しみ会を開催しました。



ひなまつり用の大きなお雛さまのパネルや、壁飾りの中、うれしいひな祭りをみんなで歌ったり、職員のペープサートを見たり、ふれあい遊びを職員の膝の上で一緒に楽しんだり…。

みんな笑顔で参加していました。普段とはちょっと違うおしゃれな洋服を着て、記念にひな壇やパネルの前で写真撮影も行いました。お子さんたちの健やかな成長を願いながら、楽しい時間を過ごさせていただきました。

保育士 厚海 孝裕



3月2日に乳児院のプレイルームにて、ひなまつりお楽しみ会が行われました。子ども達はちょっぴりおしゃれをして、大きなお内裏さまとお雛さまの壁面に驚きながらもその前で記念写真をパチリ！！始めに全員で「灯りをつけましょ ぼんぼりに〜♪」と元気に歌を歌いました。「バスが来ました」のペープサートを見た後、「バスに乗って」のふれあい遊びを職員と一緒にしたり「結んで開いて」と「ちょうちょ」の手遊びをしたりと楽しい時間を過ごしました。会食では様々な種類のお菓子をもらい、子ども達は大喜び！！あっという間に完食していました。本来予定していた、ひなまつり会は開催出来ませんでした。が、また1つ楽しい思い出ができました。

保育士 田中 麻紀子



ひなまつりレシピ



苺のクレープ

苺をつかったひな人形風のクレープです。苺は、漿果類じょうかるといといってバナナやぶどうと同じ水分の多い果物ですが、バナナやぶどうは果実を食用としているのに対して、苺は花托かたたくといって花の一部である赤い実のような部分を食用としています。苺はその実にくっついていて種のような粒粒したところが実は果実なのです。もともとの苺の旬は春ですが、現在はビニールハウス栽培のため、季節を問わず市場に出回っています。この時期、苺本来の旬な季節にひな人形風の苺のクレープでひな祭りを楽しんでみてはいかがでしょうか！

管理栄養士 菅原 綾子

【材料】1人分：ホットケーキミックス 20g、卵 10g、牛乳 50g、
サラダ油 2g、ホイップクリーム 15g



【作り方】

- ①ボウルにホットケーキミックス、卵、牛乳をいれ、混ぜ合わせる。
- ②フライパンに薄く油をひき、①を流し入れて弱火で焼く。(20cm程の大きさ)
- ③生地が乾いて浮いてきたら、ひっくり返して反対側も5秒ほど焼く。
- ④ホイップクリームと洗った苺をクレープ生地につつまみ完成。

雪遊び

ねえ、お顔はどうする？

雪が積もった乳児院の庭で
みんなで雪遊びをしました！！

おめめもつけたよ☆



雪をたくさんあつめたよ~



わ~まっ白♪



ボランティアの皆様への心こもった活動に感謝申し上げます



当乳児院はおよそ100名のボランティアの皆様によって支えられています。近隣にお住まいの方で定期的に保育補助をしていただいている方、清掃や庭の手入れ、お誕生会や季節行事のお手伝いをしてくださる企業やグループの方等さまざまです。

東京のど真ん中、そして港区という土地柄もあり、インターナショナルなご縁が多いことも特徴です。なかには20年以上に渡りその活動を続けてこられた方も少なくありません。日頃の皆様の心こもった活動に職員一同、感謝申し上げます。

多くの大人たちとふれ合い、あたたかい愛情に支えられて、子どもたちはすくすくと成長していきます。子どもたちの権利を守りつつ、可能な限り地域に開かれた乳児院でありたいと願う今日この頃です。

副院長 石田晃代

ありがとうございました！！



心理士だより♪

今日は、子どもたちの「ケンカ」の場面をみてみましょう。N太くんが、Y子ちゃんの持っている絵本を取ってしまいました。Y子ちゃんは泣いて取り返そうとします。ところがN太くんはその絵本を放り出し、ブロックで遊び始めました。そしてI介くんが触っているブロックも取ってしまいます。I介くんは怒ったようにN太くんと大人に向かって声をあげます。N太くんも大人の方を見ているのですが…。

N太くんは、「らんぼう」で「いじわる」な子どもなのでしょうか。大きくなったらどうになってしまうのか！？育てる大人が心配になることもあるでしょう。1歳、2歳の子どもたちに、所有権や優先権はわかりません。見た物に手を伸ばしつかむという、もっと小さい時にはできなかったことができるようになりました。欲しかったはずなのに、放り出しているのは？気持ちの自覚や意志を持続させる力は、まだまだ先に身につけるもの。そしてN太くんの場合、おもちゃよりお友だちに興味、関心が強いのだと思います。相手が泣いたり声をあげたり。そんな反応が返ってくるのが楽しくなってしまうのでしょうか。人への関心が育っている点は安心です。でも、お友だちが悲しいこと、嫌なことは、自分も悲しい嫌な気持ちにするものです。そのような共感する力の育ちを待ちながら、大人は、善いこと・善くないことを身振りや表情で伝えましょう。そしてまなぶとはまねることから始まります。欲しい物を自分で取ってしまうのでなく大人に訴えたり、促されてゆずったりしているお友だちがほめられているのを見るのも、良いまなびの機会になるでしょう。

心理士 柴田 薫



【苦情等相談窓口について】

当院への苦情は、師長代理、第三者委員又は当院玄関に設置してありますご意見箱（乳児院事務室前）までお願い致します。

苦情解決責任者：乳児院院長 山中一郎
苦情受付担当：看護師長代理 小泉菜穂子
第三者委員：須藤久美 川原邦子



【編集後記】

沈丁花の香りで、春の訪れを感じます。暖かい日差しの中、子ども達とお散歩へ行くのが楽しみです。 K. K

すくすく 第63号 2018.3.31. 発行
発行人 山中 一郎 編集委員 小泉 菜穂子
榎本 優采 佐藤 智美 小長谷 香利